



かがやけ天平雲

— 田中一光氏を思う —

元奈良教育大学長 赤井 達郎

わが大学のシンボルマーク「天平雲」の制作者田中一光氏の遺作展が東京展にひきつづき、昨秋十一月から一月にかけて、大阪のサントリーマニージャムで開かれた。

田中一光氏は一九三〇年奈良市に生れ、京都絵画専門学校図案科（京都芸大）を卒業し、はばひろいデザインの仕事にあたり、その個展がパリ・ミラノ・北京・サンパウロなどでも開かれるという、日本を代表するデザイナーであり、世界的な評価をうけている。その仕事について、彼の親しかった友人・安藤忠雄はつぎのようにたたえている。

「一光さんの仕事には、どれもど新しく、斬新な表現をまもって、いようとも、その背後に必ず日本の心が潜んでいた。時代が移り行く中で多くの日本人が見失っていた「心」が込められていたからこそ、デザイナー田中一光の仕事は、他の誰よりも強く、そして美しかった」。

田中一光氏には、ポスター・本の装幀などのほか、奈良で開かれたシルクロード博・大阪大学・無印良品など、多くのシンボルマークとよく知られた仕事がある。

一九九九年に制作されたわが大学の「天平雲」もその代表作のひとつにあげられる。作者・田中一光は天平雲について、つぎのような一文を寄せている。

「寧楽書院からの伝統を受け継ぎ、教育者を育成する国立大学として、古都奈良に位置するとい

う伝統をふまえて、現在使われている雲のマークをモチーフに、これを現代的に昇華するようにデザインしました。この雲は世界を結び、人と人を結ぶかけ橋となる人材をそだてる奈良教育大学にふさわしい、シンボルマークとなるよう、軽快でしかも品位あるかたちを追求しました」と。

あかるいブルーの「天平雲」は、きたるべき世界にかがやく、わが奈良教育大学の象徴でもある。



※後田中一光デザイン室様より許可を得ております。